

会議録

会議の名称	平成25年度 西東京市青少年問題協議会 第4回
開催日時	平成26年1月27日（月曜日） 午後2時から午後4時まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎3階 庁議室
出席者	委員：石井委員、河西委員、勝見委員、金原委員、小峰委員、酒井委員、住田委員、高橋委員、西原委員、藤澤委員、山崎委員（五十音順） 事務局：金谷子育て支援部長、中尾根子育て支援課長、阿久津調整係長、田中主任、名古屋児童青少年課長補佐 欠席：阿部委員、石田委員、谷津委員
議題	1 今期の会議運営について 2 その他
会議資料の名称	・会議次第 ・第7期青少年問題協議会会議運営についてのアンケート集計
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>・欠席者報告・資料確認</p> <p>・副会長挨拶</p> <p>事務局： なお、この会を進行するに当たって、今後副会長を座長と呼ばせていただきたい。</p> <p>座長： それでは議題に入る前に、前回の会議録の承認を行いたい。</p> <p>委員一同： 異議なし。</p> <p>座長： それでは承認させていただく。</p> <p>○座長： 前回の協議会においてアンケート依頼したものについて、資料1としてまとめているので、お目直し頂きたい。</p> <p>A委員： 各会の代表が出席しているので、携わっている会での問題点が聞きたい。</p> <p>B委員：</p>	

市などで実施している相談に子どもが来ることはない。しかし、子どもの様子からいじめなどを心配している親からの相談がある。子どものいじめ相談を扱うところからは、学校といじめられている子どもとのいじめに対する感じ方が違うという指摘があった。また、インターネット被害については、親が請求書を見て驚き、インターネットの使い方や止めさせ方が解らず相談に来ている。

C委員：

学校に任せておけない保護者が、先生の問題への対応方法に過剰に口出しし、物事が大きくなっている。学校だけでなくPTAにも問題の相談をすれば、要求が学校側に少しでも伝わるのではないかと考えている保護者が多くなっている。学校は保護者対応で時間を使ってしまい、本来の子どもの教育のための時間が持たなくなっていることが非常に残念だ。

D委員：

協議会は2年ごとに改選されるが、過去の協議会と今期協議会の関係性、協議会の検討方法、報告書の位置付けについて協議し、青少年問題をどういう形で取り組んで行くか初めに決めておかなければいけないと思う。

問題点は多々あるが、前期の報告書に網羅されていると思う。今期はその中で重点的に何を実施していくかという流れが有意義なのではないか。

E委員：

協議するポイントを絞ることは大切だと思う。

青少年だけでなく幅広く一番問題となっていることを報告する。薬物使用等の罪を犯した者に対する刑の一部の執行猶予に関する法律が国会で成立した。法務省試算によると、年間2,000人から3,000人が出所するとされているが、社会の中への受け入れが大切になってくる。これまで、若者の居場所について協議してきたが、若者だけでなくこの様な方達の居場所についても、広く住民の理解が必要となる。昨年を社会を明るくする運動において、あいさつ運動の時にチラシを配らせてもらっている。

F委員：

青少年問題の定義は難しく解らないところがある。前期の報告書を読み面白いと思った。率直な意見や問題点を書いてあり、中学生の居場所づくりなど、それを実行していく時期なのではないかと思う。実際には、中学生が使用できる学習室のようなものがない。図書館では場所が狭かったり、地域に偏りがある。

育成会の活動にボランティアとして参加する子どもは年々増えているが、本当に問題なのは、そこに出てこない子どもであり、どのように過ごしているのかが気になる。その様な子どもの居場所づくりも必要だ。前期の報告書を踏まえて、今期一步前進できることがあれば良いと思う。

A委員：

議論が専門的になり過ぎると、市民感情から離れてしまうことがあると思う。ここで議論したことをどのように発展させていくかが問題だ。また協議会自体が議論したことを発展させていくところなのか、議論したことを報告するところなのか、そのような検

討も必要である。

座長：

青少年問題協議会は合併後続いているが、委員の改選により継続が難しい部分がある。しかし、提言した児童館の夜間開館は実現してきた。言い続けることが大切なのではないか。

G委員：

この場でどんどん提言してもらい、その意見を関係機関に繋げていきたいと思う。職務上の課題、問題点は多岐に渡るため、取りとめのないものになってしまうが、中学生と高校生の保護者として、また職務的にも大切だと思い優先させたい事が2つある。不登校支援と学習支援である。不登校が増えているひとつの原因に、学習についていけずに、不登校になる子どもがいる現状がある。学習支援を学校で補いきれない場合、外的支援のボランティアを集めることも難しい。

H委員：

東京全体から比べると西東京市は穏やかで、学校の教育と家庭の教育と地域の連携がバランス良く流れていると感じている。その中で青少年問題としてどこに視点を当てていくかが必要だと思う。アンケート集計から視点の整理をすると、一つは、情報の受け渡しの問題について、組織の連携に視点を当てて、どこを整理しパイプを繋いでいくかを検討し、青少年問題の解決に結び付けていくこと、もう一つは、市としての大きい事項ではなく、不登校や家庭の問題など個別事項に特化したテーマにして検討していくという方法があると思う。

I委員：

何を見据えて、どのようなテーマを決めるかは難しいことだが重要である。通信手段の多様化によるトラブルの増加は大変な問題だが、自治体ができることの限界や時代の流れ等もあるため、この場で取り上げることが適当なのか疑問も残っている。

J委員：

小学校高学年の子ども達から、お喋りができる場所や商店街に駄菓子屋が欲しいなどの声がたくさんある。

青少年問題協議会は、具体的な方向性を作って、そこから議論を進めていけたらよいと思う。

座長：

時代と共に子ども達も変わってきているが、一番は家庭の中が変わっているのではないか。大人が変われば子どもが変わると強く感じる。家庭に母親が見えなくなっている。

今期の青少年問題協議会で、子ども達の実態をもう一度、現場へ行き把握したいと思っている。

D委員：

新しい委員は、育成会やP T Aの行事で関わりがあり、現場に出ているのではないか。

座長：

それぞれの担当地域を超えて現場を見てほしい。児童館・図書館・公民館など子ども達が集まる場所に行き、意見を集められたらと思っている。

D委員：

前期は、実際に行ける委員は限られていた。

座長：

今期は、専門部会員に限らず実施したい。

H委員：

児童館に行くにも、何を聞くかというコンセプトを決めないといけないと思う。何をやるべきか議論したうえで活動内容の方向性を決めた方がよい。

D委員：

テーマを決めて訪問先やヒアリング内容を絞ったほうがよい。前は色々な声を聞けたが、報告をまとめた時は総論的になった。今回は一部分に焦点を当て、一般的な意見を聞いたほうが良いのではないか。

B委員：

第6期の報告書では、一部の問題が西東京市全体の問題のように感じられる。青少年との良い関わり方や全国的に多くの青少年が感じている事に対して、西東京市の方向性等を検討したほうが良いのではなか。

D委員：

例えば大震災が起こった時に青少年のできる事等、若い力を活かせる場や方法、意識を持ってもらえるような提案をしていくことで、いざという時に協力していける地域社会を作っていくための前向きな方向性の報告書を作成することができるのではないか。

A委員：

ボランティアなどの場を提供していくことも大事である。また、家庭でお手伝いをすることなど、当たり前のことをすることを伝えていく事も大事である。

座長：

社会を明るくする運動実施委員会で実施している環境浄化活動は、第1期の青少年問題協議会で実施したものだが、協議会は実施委員会ではないということから、社会を明るくする運動実施委員会で実施してもらった。我々が提案したことを地域で実施することは可能だと思う。

F委員：

育成会主催で歩け歩け会を実施しており、中学生のボランティア活動の場となっている。100人近い中学生ボランティアが集まった場合、まとめ役の大人のボランティアが不足している。青少年の活動する場を作った場合は、場を仕切る大人の対応が問題となることが多い。参加した青少年の気持ちを大事にしなくてはいけないなど、関わり方が大切である。

D委員：

例えば、「地域や大人を助ける青少年になるには」というようなテーマで児童館や自分たちが関係する施設で子ども達から情報収集をすれば、何を子ども達が想い、どのような将来を希望しているかが解ってくるのではないか。ヒアリングするのであれば、漠然としたものではないほうがよい。今の子ども達は、発言力もあり、いろいろと考えている。子ども達の力を信頼してヒアリングを行うとよいと思う。

H委員：

家庭教育が一番の問題である。どの家庭もしっかり育ててほしいという事をどのようにアドバイス、支援していくかが課題である。取組みとしては難しいが、当たり前の家庭教育を推進していくための手法を、この協議会でいろいろな視点からまとめていくとよい。

座長：

今後専門部会を設置し、内容検討を行い実施していきたい。年4回の定例会で進捗報告し、意見を取り入れながら進めていきたい。

委員一同：

異議なし。

以上にて終了。

・各委員の情報交換